
第 107 回関西スペイン語教授法ワークショップ(TADESKA) 開催の報告

CVII Reunión del Taller de Didáctica de Español de Kansai

日時:2017 年 5 月 13 日(土)10:00 - 12:00

場所:茨木市福祉文化会館 101 号室

担当者:柳田玲奈

「GIDE(2015)『スペイン語学習のめやす』を利用して所要時間 20 分の教案を作る

-辞書の使い方を教えるための「20 分教材」案(テーマ 6:食べ物・飲み物)-」

* Fecha y hora: sábado, 13 de mayo de 2017, de 10:00 a 12:00

* Lugar: Ibarakishi Fukushi-bunka-kaikan, Sala 101

* Encargada: Reina Yanagida

* “Elaboración de unidades didácticas de aproximadamente 20 minutos utilizando

"Un modelo de contenidos para un modelo de actuación"(GIDE 2015):

Conocer cómo se utilizan los diccionarios del español. (Tema 6: comidas y bebidas)”

参加者: 10 名 (本教案提案者を含む)

配布教材: [メニュー3種](#)

★以下は、ワークショップ当日に参加者に配布したレジュメをもとに、当日のやり取りも含めて加筆・修正した実施報告である。

0. はじめに

今回は、【辞書の使い方】を知ること为目标に据えた教案を作成した。文法の学習というよりも、その基盤となる辞書というツールをどう使えばよいかを、学習者に早期に体験させ、辞書を引くことのハードルを少しでも下げ、また効率よく辞書を活用するために必要な知識があるのだということを認識させることを目標とした。

本教案は第二外国語としてのスペイン語の授業を念頭に置いて作成されている。受講生たちには学期の始めに「辞書を入手して利用すること」と伝え、何らかの辞書を手元に置かせるが、彼らの用意する辞書のタイプはポケット版から電子辞書、場合によってはスマートフォンのアプリケーションまで人それぞれであり、到達目標レベルの違いから専攻科目の受講生よりバリエーションがあるのではないかとされる。また、教師の願いも空しく彼らの多くはいくつかの理由によりせっかく入手した辞書をなかなか活用してくれず、宝の持ち腐れになってしまっていることも多いのではないだろうか。

辞書を引く＝単語を見つけることで終止せず、そこから何を見つければいいのか、どうやって見つければいいのかのルールを見せてやることで、その先の学習に効果を発揮するような、そんな時間を授業内で確保できれば理想的である。

1. 想定される問題

学習の初期の段階で起こると想定される問題を以下に挙げる。

- ①辞書を引かなければ分からない単語が多すぎて、面倒になる。
- ②辞書を引いても載っていない、あるいは見つけられないという経験を経て、辞書を引くモチベーションがさらに下がる。
- ③目標の語を見つけても、書いてあることの意味があまりよく分からない。(名詞の性、動詞の活用などを含めた辞書特有の書式など)
- ④目標の語を見つけても、書いてあることが多すぎて読んでいく気にならない。
- ⑤熟語が見つけられない。

これ以外にも多種多様な小さな問題が存在する可能性がある。このようなことは、中学などで英語の学習を始めたときにもすでに経験しているはずであるが、必ずしもそれをきちんと乗り越えて来られた学習者ばかりとも限らず、また、すでに遠い記憶になってしまっていて、今改めてもう一度やれと言われても気持ちがついていかないような学習者も多いのではないだろうか。

教師にとって辞書はあまりに当たり前の存在であり、第二外国語としてのスペイン語学習者にとっては相当重い負担であるように思われる。私たち教師は、「辞書は引いてなんぼ」くらいにしか考えておらず、「引き方が分からない」あるいは「引く気がしない」という気持ちになかなか寄り添えていないのではないだろうか。

2. 教案

2.1. 対象

本教案は、以下のような学習者を対象として作成された。

- ①アルファベット、名詞の性・数は学習済み
- ②形容詞を学習中

また、基数詞も学習済みであることが望ましいが、実践的側面を踏まえて本教案の中で 1~3 くらいの基数詞を紹介するだけでもよいと考える。

2.2. 関連テーマ：食べ物・飲み物

本教案は、『スペイン語学習のめやす』のテーマ 6『食べ物・飲み物』に基づき作成された。具体的に盛り込むことが可能であろうと思われる項目等は以下の通りである。(×は該当なし)

このテーマを学習した後にできるようになること

対人モード：料理の材料を尋ねる・発言する。食べたい物、飲みたい物を注文する。

解釈モード：レストランのメニュー等を読んで理解する。レストランの営業時間等を読んで理解する。

提示モード：×

項目

社会文化項目：食事時間、食事の社会的機能、食の多様性、レストランで注文する方法

語用論に関わる項目：×

機能項目：料理について情報を求める・与える

語彙項目：食事に関連する動詞、食料品と飲料、レストランで、料理、食器類、味

文法項目：直説法現在の活用と用法 (*querer, preferir*)、動詞 *ser*、不定詞を用いた動詞句、疑問文

モデル文

Un café, por favor.

¿Me trae otra cerveza?

La cuenta, por favor.

¿Qué es el guacamole? – Es aguacate molido.

¿Qué lleva este plato? – Lleva tomate, ajo, pan y aceite de oliva.

¿Qué hay de primero? – Hoy tenemos sopa de marisco.

Oiga, por favor.

以上、教案と関連づけられそうな項目等を列挙したが、本教案は 20 分にまとめることも条件の 1 つであるため、すべてを入れることは不可能である。今回の最重要目標を【辞書の使い方を知る】ことに定め、かつ、対象者を学習段階の初期に設定しているため、上記のうち

①解釈モード：レストランのメニュー等を読んで理解する。

②社会文化項目：食事時間、食事の社会的機能、食の多様性、レストランで注文する方法

③語彙項目：食料品と飲料、レストランで、料理、味

を最大限の焦点としたい。(つまりこれ以上のことを教案に詰め込まない。)

また、モデル文も挙げたが、動詞などをまだ何も習っていない段階なので、本教案ではほとんど使用していない。por favor という慣用句を紹介し、Un café, por favor. と La cuenta, por favor. に加えて La carta, por favor. くらいを、定型文として紹介できればいいと考えている。

2.3. 教案内容

実際に注文するという目的がある方がメニューを読むモチベーションが上がる可能性もあると考え、主な工程を以下の 2 点としたが、社会文化項目に関する解説などを入れる実際の所要時間を考えると、余裕をみてそれぞれに 20 分ずつ、つまり i に 20 分、ii に 20 分とした方がよいだろう。

i. スペイン語で書かれたレストランやバルのメニューを見て、どんな料理や飲み物があるかを知る。

ii. レストランやバルでの注文方法を知る。

なお、バルではきちんとしたメニューリストが用意されていないこともあり、またレストランでも冷たい飲み物のメニューを書いたものはなく口頭で言われることも多い。今回のメニューリストは本教案提案者が実際のもをモデルに作成したものであり、飲み物のリストはコーヒー・茶類に限られる。

具体的な教案内容は以下の通り。カッコ内は教師から日本語で解説を加えることで、社会文化項目や対人モードの文法項目などを満たそうとするもの。

- ①3~4人のグループに分ける。グループ内には複数種類の辞書があることが望ましい。本の辞書と電子辞書などが混在しているとなお良い。
- ②バルやレストランに入るところから、状況をイメージさせる。(バルとレストランとカフェの違い、開店時間帯や食事時間、いい店の選び方など)
- ③バルに入ったら、挨拶をしてカウンターか席につく。レストランなら人数を言って席へ案内してもらおう。(バルとレストランにおける店員の対応およびマナーの違い、挨拶、数字など)
- ④各グループに **La carta, por favor.** とかわせて、教師からメニューリストを渡す。(慣用句 **por favor** の紹介、語彙 **menú** と **carta** の違い)
- ⑤**menú** (セットメニュー) のシステム、通貨の紹介や値段の仕組みを紹介する。
- ⑥メニューリストの中の語彙をグループごとに辞書を使って調べさせ、各グループの注文内容を決めさせる。
- ⑦グループ内で1人 **camarero** 役を決めさせ、その人にだけ **camarero** 役のセリフを書いたものを配布。残りのメンバーには、注文用のフレーズをいくつか書いたものを配布し、それを使ってやり取りをさせる。
- ⑧**La cuenta, por favor.** を紹介して、終了。

時間があれば全員で同じメニューを見て活動することを複数回行って、全員がバルもレストランも体験できることが理想だが、時間がなければクラスを半分に分けるなどして、解説は全体にすることでもかまわないだろう。

②の「店の選び方」というのは、例えば床が散らかっていることは必ずしも悪いことではないなど、初めて旅行に行った時の店選びに参考になりそうなことをいくつか紹介してやるといいかもしれない。

③について。日本では店員が「いらっしゃいませ」というだけの一方通行が多いが、スペイン語圏のバルやレストランでは客からも挨拶をすることが普通であることや、バルでは自分で場所を確保しなければならないがレストランでは案内を待つべきであることなど、マナーや習慣に関することも紹介する。また、基数詞を未習の場合はここで1~3くらいまで紹介してやると良い。

④スペイン語では紙などに書かれたメニューリストのことを **menú** ではなく **carta** と言うこと、**menú** はセットメニューを意味することを紹介する。

⑤**menú** の中に出てくる **primer plato, segundo plato, bebida, postre** などの語彙は先に紹介してしまっていていいだろう。ただ今回配布したメニューでは、**primero** の語尾脱落が落とし穴にならないよう、**primeros, segundos** という書き方にした。また、冷たい飲み物のリストはあまり提示されないこと、バルならカウンターかテーブルかで価格が変わることがあること、タパスの注文単位は **tapa** と **ración** と **media ración** があることなどもメニューを見ながら紹介できるだろう。

⑥でやっと学習者たちが辞書を使う。それぞれが辞書を使って語彙を調べるが、手分けするよりみんな同じ語を調べるよう促す方が、異なる辞書同士の特性を比較できる。載っている語彙の数、用例、解説、語彙を見つける労力、その他いろいろな点で学習者自身に特性を発見させるのが理想。そのため、ここはたっぷり時間を確保し、教師は各グループを巡回して、名詞や形容詞の語尾変化に注目させ、複数形になっているものは単数形にしなければ辞書の見出し語にないこと、名詞と形容詞の語順、形容詞の変化など、適宜何度でも解説をする。この時に、どの辞書にも載っていないような語はメニューに入

れない方がよいかもしれない。また、可能であれば適宜スマートフォンなどを使って画像検索でどんな料理なのか見てみるということも、語彙項目の学習に役立つだろう。

⑦では、まだ動詞が未習であり、また、メニューに使われている名詞や形容詞を辞書で調べさせることに集中させるため、注文時に使用するいくつかのフレーズを定型文として配布する。学習者はそれに自分たちが注文したい料理などを当てはめていくことで注文ができる。

以上が今回提案した教案だが、本項冒頭でも述べたようにこれをすべて 20 分でやることは難しい。①～⑤で 20 分、⑥～⑧で 20 分という組み立てが妥当だと思われる。

3. 本ワークショップにおける教案実施およびディスカッション内容

3.1. 教案実践

ワークショップでは、上記教案のうち①④⑥のみ実際に行い、教案紹介および実践とした。

本教案提案者以外の参加者 9 名を 3 人ずつの 3 グループに分け、3 種類の異なるメニューを各グループに配布した。使用したメニューは本報告書の冒頭に添付しておく。このメニューは本教案提案者が実際のいくつかのメニューを参照しながら手書きで作成したもので、難易度が高いと思われる語彙や想像しにくい料理をできるだけ避けてあるが、手書きで作成する場合、できれば日本人の筆跡ではなくネイティブの手によるものの方がより臨場感があり、学習者もネイティブの文字を読む訓練ができると思われる。また、メニューには *cafetería* と *terraza* で別の価格を表記したり、*media ración* と *ración* の価格を併記したりと、社会文化項目や語彙項目に効果的かつより臨場感が出るよう工夫した。

3.2. ディスカッション

ワークショップにおいて行われたディスカッションの主な内容を箇条書きにして以下にまとめる。なお、ここにはワークショップでのディスカッションを経た本教案提案者の意見も入っている。

- いわゆる紙に書かれたメニューリストを指すスペイン語は、*menú* か *carta* か。もともと本教案提案者は、スペイン語の *menú* は *menú del día* を指し、注文のために見るメニューリストは *carta* であると認識していたため、それを学習者に示そうと *menú* という語を辞書で調べさせることを教案に入れていたが、実際にいくつかの辞書を見てみると、「メニュー」と書いてある（しかも第一義に！）ものが多く、食い違うことが分かった。ワークショップに参加していたネイティブ 2 名にどちらを使うか尋ねたところ、どちらも使うが *menú* は確かに *menú del día* と誤解される可能性もあるので、*carta* の方がいいのではないかという結論になった。そのため、教案ではそのまま *La carta, por favor.* という表現を紹介することにした。*menú* という語については逆に「辞書にはこう書いてあるが」という解説をしてはどうかという提案もあった。
- メニューに出てくる形容詞のうち、過去分詞であるものなどは辞書の見出し語にないことがあった。具体的には、今回 *rebozado* が見出し語になかった。これを、元の動詞を調べてそこから考えることは、今回想定した対象には難易度が高すぎる。メニュー作成時にそのような語を使用しないよう注意する必要があるだろう。

・今回は学習の初期段階から辞書の使い方に慣れてもらうことを目的としたため、初級レベルの学習者を対象としたが、本教案は学習 2 年目など初級から中級段階の学習者にも十分効果のある教案であろうという意見が多かった。第二外国語科目の受講生であれば、2 年目になっても未だに名詞と形容詞の語順が定着していなかったり、複数形から単数形が導き出せないなど、基本的な文法項目が十分身につけていない場合も少なからずあり、さらに語彙についても、日常触れるものだから知っていた方がよいと教師が考える語彙であっても、それまでに教科書に登場していなければ知らない可能性も高く、出てきていたとしても記憶に残っていないことも多いだろう。また、一通り基本文法を学習した段階であれば、過去分詞なども堂々と紹介することができ、十分学習効果が期待できるだろうということであった。

・飲み物の注文が口頭で行われることが多いという点について、あらかじめ飲み物の語彙を紹介しておいて、リスニングの練習をするなど、別のアクティビティとして取り入れることが可能だろうという提案があった。

・本教案提案者が常々懸念している以下の点について、参加者の意見を求めた。「食べ物や飲み物の話題は学習者も関心を持ちやすい分野だと思うので、教師側もたくさんの情報を提供したくなるが、実は実際に旅行や留学などで本人が現地へ行って、そのシーンに対峙して発見する方がおもしろいこともたくさんある。どこまで先に教えてしまうか、本番の新鮮味が薄れないだろうかという迷いをいつも感じる。」

参加者からは次のような意見が出て、提案者も納得ができた。「第二外国語としてスペイン語を学ぶ学習者たちは、必ずしも長期の留学をしたり時間をかけてスペイン語を学ぶとは限らない。短い旅行中の数少ない機会に、困難に直面したり失敗したりしながら学ぶ時間はなく、むしろ失敗体験により悪いイメージを残してしまうことも考えられる。それを避け、成功体験につなげるために、ある程度の情報は事前に与えてやっていいのではないか。」

・辞書を使用するだけでなく、適宜スマートフォンなどを使って画像検索でどんな料理なのか見てみることは楽しいだろうという意見も多数出た。名詞すべてを画像検索してしまえば本教案の目的がかなわなくなるが、料理名だけでは想像に限界があるため、物によっては画像検索が大変有効であろうと思われる。今回のメニューに *paella mixta* を載せたが、例えばそれとは別に *paella valenciana* や *paella de mariscos* などを紹介して画像検索させ、うまく出てきたら画像から違いを発見させるのもいいかもしれない。

・「辞書を引く」ということは、「語を見つけ出す」ことが目的なわけではない。語を見つけた上で、そこに書いてあることを「読んで理解する」ことに意味がある。「辞書は読み物だ」といつも言っているという参加者もいたが、辞書を丁寧に見る習慣をつけさせることは大変難しいことだろうという意見が多かったのも事実である。今回のような活動を学習の初期に行ったとして、その後も継続的にこのような活動を取り入れなければ、学習者はすぐに辞書から離れてしまう。その時間をなんとか授業内で確保できないものか、継続的に辞書を使用させるにはどうしたらいいのか。決められたカリキュラムと限られた時間の中で非常に難しい問題であり、今後も方法を模索していく必要があるだろう。

・昨今において、スマートフォンのアプリを禁止することは、果たして学習者にとってどれほどのいい効果があるだろうかという点についても、議論された。アプリが実用面で大変優れていること

は、多くの教師自身が認めるものであり、もちろん紙の辞書による学習効果も多分にあるであろうが、今の若者にそれを押し付けることが果たしてポジティブな効果だけを生んでいるかどうか疑問である。最終的に辞書を敬遠してしまうのであれば、紙であろうが電子辞書であろうが宝の持ち腐れであり、いっそ学習者に一番身近ですぐ手にとれるスマートフォンを利用させてやるのが、学習効果を高める可能性もあるのではないだろうか。

4. 発展案

今回は対象者を初級段階に限定した教案を提案したが、同じ教材を使ってさらにレベルの高い学習者を対象としたり、あるいは同じテーマでたくさんの表現を練習したりすることが可能である。以下に、その例を挙げる。

- ・動詞やその他の文法事項を習った後であれば、以下のような実践的表現を使う練習ができる。

「これは何ですか？」 「〇〇はありますか？」

「お勧めは何ですか？」 「小さいサイズのものありますか？」

「これに合うワインはどれですか？」 「私は〇〇アレルギーです」

「この料理は辛くないですか？」 「温かい料理がいいです」

「おなかいっぱいです」 「〇〇を抜いてください」

「もう少しパンをください」 「2人で分けたいです。」

「よく切れるナイフに換えてもらえますか？」 「残った水を持って帰っていいですか？」

「デザートはいらないので、コーヒーをもらえますか？」 「カードで支払えますか？」

動詞は、紙の辞書であればたいい原形を見出し語で探さなければいけないが、電子辞書やスマートフォンのアプリであれば活用形から原形へジャンプさせてくれる機能があるものもある。活用表の見方、活用表へのジャンプの仕方なども、辞書の利用方法として定着させる必要があるだろう。

- ・店員から言われそうなことをイメージしておくこともできる。

「何名様ですか？」 「どこでもお好きなおところにお座りください。」

「何にしますか？」 「本日の前菜は、〇〇と〇〇と〇〇と〇〇です。」

「お決まりですか？」 「お肉の焼き加減はどうしますか？」

「(お食事は) いかがでしたか？」 「コーヒーかお茶はいかがですか？」

学習者自身が言う機会はおそらくない表現ばかりだが、聞いて理解する必要はある。自分で使う表現と区別して教示することも重要だろう。

- ・ディクテーション練習

注文する役を1人にして残りを **camarero** 役とし、**camarero** 役にはメモ用紙を持たせ、注文内容を聞き取って書く練習をする。あるいは教師が注文する役をしてもいいだろう。